

# 久我山コートから昭和の森、 テニスの聖地「有明」へと舞台を移した 「全国レディーステニス大会」

— 後編 —



1979年にスタートした「全国レディーステニス大会」は、2002年の第24回大会より朝日生命久我山テニスコートから昭和の森テニスセンター（旧称）、そして2023年の45回大会より「有明テニスの森公園」に舞台を移して開催されている。24回大会以降の出場者たちから思い出を語ってもらった。

2014年第36回全国レディーステニス大会開会式

## 全国レディーステニス大会に出場した 皆さんにインタビュー

- 第25回大会出場 大阪府代表 田中 恵美子  
21年前は「主婦の甲子園」という名の通り、主婦でも目標に向かって頑張れば、仲間と感動を分かち合える大会で、プレースタイルもロブや並行陣が目立っていた。現在はほとんどハードヒッターの雁行になり、迫力あるテニスに変わってきたように思う。
- 第26回大会出場 東京都代表 佐藤 千枝  
30歳代になっても熱くなれる場所があると知ってチャレンジし5年目で代表になれた。昭和の森のセンターコートで、土手の上から多くの声援を受けた。東京代表というだけで見知らぬ方も応援して下さり、こんな素晴らしい体験は二度とできないと思った。
- 第26.27.30.36回大会出場 茨城県代表 橋本 淳子  
初めて代表になった時は、嬉しい一言だった。5年の休み明けで臨んだ36回大会は、今度こそとチーム一丸となり卒業を目指した。前日にレセプションが行われ、ドロー抽選が盛り上がった。たくさんの応援に支えられて戦える幸せは当時も今も変わらない。
- 第30.39.40.44.45.46回大会出場 青森県代表 安宍 美希  
一番に目標としてきた大会なので、代表に決まった瞬間は、嬉しくて練習を頑張った甲斐があったと思った。昭和の森の時のレセプションが楽しく、ドローがその場で決まるのでワクワク感があった。有明はテレビで見たプロの試合のコートで、自分もプレーできる喜びがあり、気持ちもアップする。
- 第38.39回大会出場 兵庫県代表 古出 直子  
8年ぶりに代表になり、当時はなかったインスタで大会を見て、応援して下さる方がいて嬉しかった。昭和の森と比べると有明は東京駅からのアクセスも良く、商業施設も充実していて過ごしやすい。
- 第38回大会出場 熊本県代表 小山 香  
代表として3回目の全国大会は熊本地震の翌年で、選手宣誓をやらせて頂き、熊本初の悲願のベスト4という快挙!! 一生の思い出となった。

- 第35回大会出場 神奈川県代表 加藤 みどり  
35回の記念大会で50チームも集まり、応援がものすごい人数だった。今はトレーナーを帯同するチームもあるが、当時は「目指せ!昭和館!」を合言葉に自分たちでモミモミマッサージをし合っていた。
- 第31.35回大会出場 東京都代表 木次 桜  
以前より選手が快適に過ごせて実力を発揮できる環境が整備されていると思う。SNSやYouTubeなどの発信も多く、広く楽しめる大会となっている。
- 第34.36.37.43.44.46回大会出場 山梨県代表 望月 美紀子  
先輩方から「ウォームアップウェアは全員白で試合の時は素足だった」と聞いたが、今はタイツがOKになり、ウェアの色も自由で柔軟になっていると思う。
- 第43.46回大会出場 福岡県代表 飛永(上原) 夕佳  
以前、全国に出た時は昭和の森だったが、有明はアクセスもよく活気を感じる、青色のコートも心も落ち着き集中力を高めて試合に臨めそうで楽しみ。
- 第44.43.46回大会出場 静岡県代表 宮永 京子  
第41.46回大会出場 静岡県代表 松本 睦美  
昭和の森と有明の両方を体験したが、個人的には昭和の森の方が一体感があった。
- 第45.46回大会出場 沖縄県代表 長田 香代子(監督)  
昭和の森のホテルは食事も移動も大変だったが、今は空港から近く便利になり、試合以外の疲労が減った。

- 第45.46回大会出場 岡山県代表 八木 洋子(監督)  
県代表になる事を目標に育児と主婦業をしながら時間を作って練習した。全国大会はプレッシャーもあったがコートに入ると集中できた。他県の選手のプレーも見ることができてとても勉強になったが、関東の応援がすごくて圧倒された。